

第 44 回日本フィッション・トラック研究会実施報告

伊藤久敏

第 44 回日本フィッション・トラック (FT) 研究会は、ESR 応用計測研究会・ルミネッセンス年代測定研究会との合同研究会として、2019 年 11 月 27 (水) ~29 (金) の三日間に亘り、岐阜県土岐市のセラトピア土岐にて開催されました。

今回は、日本原子力研究開発機構 (JAEA) 東濃地科学センターの末岡 茂氏を中心とした JAEA の方々の全面的な協力があり、これまでのものとは一味違った印象深いものとなりました。まず、末岡氏による周到な事前準備 (1st Circular, 2nd Circular 等によるアナウンス etc) がありました。恐らくそのためもあり、今回は 67 名の参加、39 件の発表と FT 研究会始まって以来、ともに最大数を記録しました。発表会初日の午前には、瑞浪超深地層研究所立坑見学があり、20 名余りが 3 班に分かれて、地下 300 m の研究坑道の見学を行いました。同立坑は、近々埋め戻しが開始されるとのことで、貴重な見学の機会を得ることが出来ました。

発表会は、JAEA の年代測定研究に関するセッションで始まり、その後に通常のセッションが実施されました。セッションは FT が 1 つ、ESR が 2 つ、ルミネッセンスが 3 つ、U-Pb が 1 つ、という構成でした。FT のみの研究発表は数件のみと少ないものの、FT で特筆すべきこととして、FT 自動計測装置 (Autoscan Systems 製 Trakscan Plus Professional) が、JAEA に導入されたことが紹介されました。JAEA の丹羽正和氏による「破碎帯の詳細な記載に基づく断層の発達史の復元：いくつかの事例紹介」と題した特別講演は、断層の年代測定研究を行う上で、示唆に富んだ内容であったと思われます。

二日目の夜には、セラトピア土岐二階の小ホールと称する大広間にて盛大に懇親会が行われました。広間の中央には豪華な食事が、奥には末岡氏厳選?の岐阜の銘酒が並べられ、和気あいあいと懇親を深めることができました。

三日目午前に発表会が終了し、午後は土岐地球年代学研究所のラボ見学会が実施され、約 30 名が参加しました。最近導入され、日本で唯一の (U-Th)/He 年代測定用の He 同位体比測定装置のほか、U-Pb 法等のための LA-ICP-MS 装置、ルミネッセンス・ESR 関係の装置、 ^{14}C や ^{10}Be 年代測定等に利用される加速器質量分析装置などを見学させて頂きました。

以上のように、今回は、入念に準備された国際会議に匹敵するような内容であったと思います。末岡氏はじめ JAEA の関係者の皆様にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。なお、次回はルミネッセンス年代測定研究会の伊藤一充氏が世話役となり、つくばの産業技術総合研究所にて開催されることとなりました。

出席者 (所属) :

天野 英樹 (北電総合設計), 網本 真奈 (岡山理大), 五十嵐 雄大 (金沢大), 石井 祐

次 (産総研), 石橋 梢 (山形大), 石丸 恒存 (原子力機構), 磯谷 舟佑 (神戸大), 伊藤 一充 (産総研), 伊藤 久敏 (電中研), 大平 寛人 (島根大), 岡 壽崇 (原子力機構), 小形 学 (原子力機構), 小北 康弘 (原子力機構), 小倉 一郎 (極東貿易), 小畑 直也 (蒜山地質年代学研究所), 甲斐 綾子 (山口大), 鏡味 沙耶 (原子力機構), 梶田 侑弥 (京都大), 雁沢 好博 (石川県立大), 菅野 瑞穂 (原子力機構), 菊地 悠斗 (石川県立大), 木田 梨沙子 (名古屋大), 國分 陽子 (原子力機構), 小島 慧吾 (極東貿易), 小林 侑生 (京都大), 小松 哲也 (原子力機構), 小山 博晃 (金沢大), 近藤 玲介 (皇學館大), 佐藤 李咲 (石川県立大), 下岡 順直 (立正大), 島田 愛子 (JEOL), 島田 耕史 (原子力機構), 清水 麻由子 (原子力機構), 新正 裕尚 (東京経済大), 末岡 茂 (原子力機構), 高田 将志 (奈良女子大), 田上 高広 (京都大), 館 萌々子 (岡山理大), 田中 桐葉 (東北大), 谷 篤史 (神戸大), 田村 明弘 (金沢大), 田村 亨 (産総研), 檀原 徹 (京都 FT), 斗澤 皓正 (原子力機構), 戸高 安曇 (岡山理大), 豊田 新 (岡山理大), 中嶋 徹 (京都大), 中西 利典 (原子力機構), 丹羽 正和 (原子力機構), 長谷部 徳子 (金沢大), 花室 孝広 (原子力機構), 林崎 涼 (電中研), 原之園 大一 (岡山理大), 日浦 祐樹 (原子力機構), 廣田 誠子 (広島大), 福田 将真 (京都大), 藤原 泰誠 (蒜山地質年代学研究所), 水田 幸男 (日本電子), 水野 真衣 (金沢大), 蜜澤 岳 (石川県立大), 光安 優典 (東北大), 山田 隆二 (防災研), 山中 千博 (大阪大), 横山 立憲 (原子力機構), 横山 優花 (神戸大), Gao Lei (産総研), Udaanjagal Uyangaa (金沢大)

(計 67 名, 五十音順, 敬称略)



第 44 回日本フィッション・トラック研究会総会実施報告

伊藤久敏

第 44 回日本フィッション・トラック (FT) 研究会総会は、2019 年 11 月 28 日 (木) 17:10 ~17:40 にセラトピア土岐にて、以下の内容で実施されました。

1. 出席会員数の確認： 普通会員 16 名の出席と委任状 18 名分が得られたことから、普通会員 (61 名) の 1/5 以上の出席および委任状をもって、総会は成立することを確認した。
2. 今年度の活動報告： ①FTNL 第 32 号は現在 4 件がアップロードされているが、今後 2 件アップロード予定であり、それをもって第 32 号とすることが承認された。第 32 号の印刷物については次号との合併号とする方向で調整することが承認された。②第 44 回 FT 研究会をセラトピア土岐にて開催した。③研究会の HP の更新状況を確認した。なお、次回以降、研究発表会のプログラム (案) も適宜 HP にアップすることとした。
3. 2018 年度の会計報告 & 会計監査報告： 2018 年度の収入は 642,541 円、支出は 37,765 円であり、差額の 604,776 円を次年度に繰り越すことが報告され、監査報告とともに承認された。なお、第 44 回 FT 研究会の懇親会で発生した不足分は 2019 年度の予算で補填することとした。
4. 次年度の執行部体制： 次年度 (2020 年度) の執行部は、今年度と同じ体制とすることが承認された。
5. 次年度の活動計画： 以下の活動計画が承認された。①FTNL 第 33 号は 2020 年 10 月発行に向けて活動する、②第 45 回 FT 研究会は ESR 応用計測研究会・ルミネッセンス年代測定研究会と合同で開催する、③Thermo2024 を日本に誘致するための準備 (会場の確認ほか) を進める。

以下の計 18 名の方々からは総会に関わる委任状をいただきました。ご協力いただき、有難うございました。安間 了, 猪又 竜, 岩野英樹, 北田奈緒子, 白井香奈江, 新正裕尚, 檀原有吾, 中里裕臣, 西村 進, 林 広樹, 星 博幸, 松浦秀治, 三浦知督, 三浦英樹, 村松敏雄, 森本祐一郎, 山崎誠子, 渡邊公一郎 (五十音順, 敬称略)